

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種説明書

1. 予防接種の対象となる病気

◆ ヒトパピローマウイルス感染症

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微少なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のもは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因となることが分かっています。

2. 組換え沈降ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン(不活化ワクチン)

ワクチンは、2価ワクチン(サーバリックス)、4価ワクチン(ガーダシル)、9価ワクチン(シルガード9)の3種類があり、いずれかを接種します。これらのワクチンは子宮頸がんをおこしやすいタイプであるHPV16型と18型の感染を防ぐ効果があります。2価または4価HPVワクチンの接種により子宮頸がんの原因の50~70%、9価HPVワクチンの接種により80~90%を防ぐ効果が示されています。

3. 副反応

主な副反応は、発熱や、局所反応(疼痛、発赤、腫脹)です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)等が報告されています。

※詳しくは、厚生労働省のホームページやリーフレットなどをご確認ください。

4. 接種時期(標準的な接種時期)

小学校6年生~高校1年生(標準的には中学校1年生)の女性が接種します。

※令和4年度は平成9年度生まれ~平成17年度生まれ、令和5年度は平成9年度生まれ~平成18年度生まれ、令和6年度は平成9年度生まれ~平成19年度生まれの女性も対象です。

※いずれかのワクチンを接種しますが、原則、同一のワクチンを継続して接種します。

・2価ワクチン(サーバリックス)

1ヵ月の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から6ヵ月後に3回目を接種します。

・4価ワクチン(ガーダシル)

2ヵ月の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から6ヵ月後に3回目を接種します。

・9価ワクチン(シルガード9)【初回接種が15歳以上の場合】

2ヵ月の間隔をおいて2回接種した後、1回目の接種から6ヵ月後に3回目を接種します。

・9価ワクチン(シルガード9)【初回接種が15歳未満の場合】

1回目から6ヵ月後に2回目を接種します。(2回接種で完了です。)

予防接種を受けるに際し、次のことに十分注意のうえお受けください。

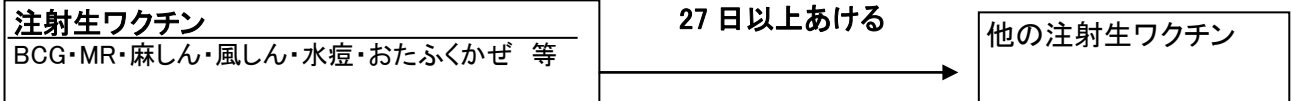
- 予診票は、接種を受けるお子様の当日の健康状態を保護者の方が責任をもってご記入ください。
(各項目の記入漏れがないようご注意ください)
- 説明書及び下記の注意事項をご理解のうえお受けください。

(1) 予防接種を受けられないお子さんは、次のようなお子さんです。

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上の方)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれている成分で※ アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

※アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

(2) 予防接種の効果や安全性を確保するため、異なる種類のワクチンを接種する際は、次のことにご留意ください。



上記以外では、異なる種類のワクチン接種間隔は制限なし

(3) 接種後の一般的注意事項は次のとおりです。

- ① 接種当日は過激な運動はさけてください。
- ② 接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめ清潔にたもってください。
- ④ 局所の異常な反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の判断をお受けください。
- ⑤ 接種後、高熱・けいれん・不機嫌等の異常な症状をあらわした場合は速やかに医師の診察を受けてください。

(4) 予防接種による健康被害救済制度

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じたりした場合には、給付を受けられる可能性があります。

※その際には、健康増進課までご相談ください

(健康増進課 電話 0285-22-9526)